



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

月例調査レポート



松代 東条
北アルプスの
峰々と杏畑

今冬は観測史上最も暖かな冬だったとのこと。長野市の平均気温は平年を2.8度も上回ったそうです。青空と残雪の峰々、そしてアンズの花のピンク色。人々に希望を与えてくれる早春のこの風景。いつの世も変わらずにと祈ります。カラー写真は当金庫ホームページをご覧ください。

- 長野しんきん月例調査レポート…………… 2
- 企業アンケート 2020年の経営見通し ③ …… 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン…………… 8
- 北信濃 江戸時代の風景 (67) 洪水後の山村山…………… 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫について](#)



概況 全産業

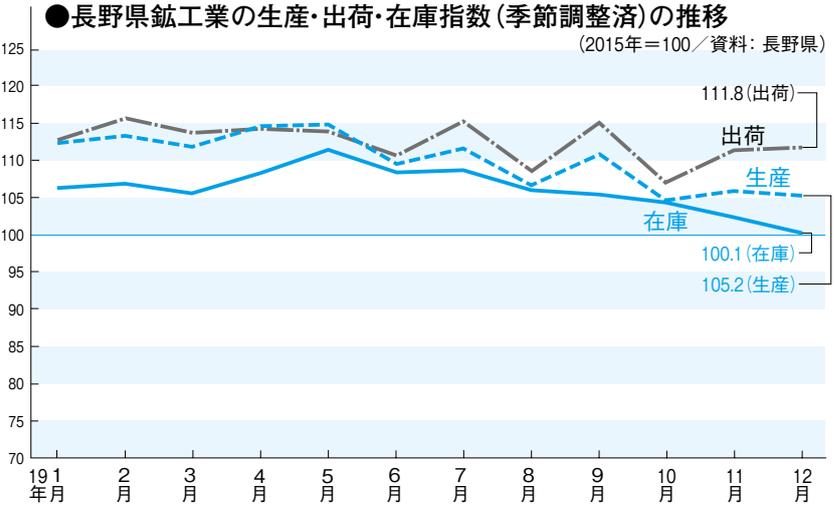
生産は2カ月ぶりの低下 前年同月比は5カ月連続の低下

◇令和元年12月の長野県鉱工業指数 (速報：季節調整済指数)

生産は105.2(前月比▲0.7%)で2カ月ぶりの低下、出荷は111.8(同+0.4%)で2カ月連続の上昇、在庫は100.1(同▲2.2%)で5カ月連続の低下となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は106.1(前年同月比▲6.8%)で5カ月連続の低下、出荷は113.1(同▲7.1%)で3カ月連続の低下、在庫は103.0(同▲3.3%)で2カ月連続の低下となりました。



- [生産] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、金属製品、輸送機械など8業種
低下…情報通信機械、食料品、その他など9業種
- [出荷] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、輸送機械、金属製品など10業種
低下…情報通信機械、食料品、窯業・土石製品など7業種
- [在庫] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、窯業・土石製品、プラスチック製品など5業種
低下…その他、電気機械、情報通信機械など11業種

月例調査

全産業の「売上高」は減少

前回調査 2020年1月

◇2月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業を除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(27

%)が2割減少、「減少」割合(36%)が2割増加、「不変」割合(37%)が1割増加、全体としては減少の状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比 (3ポイント以上の動き) ↑ 増加 → 不変 ↓ 減少
↻ 改善 ⇄ 不変 ↻ 悪化

業種	前回	今回	前回	今回	前回	今回	改善/悪化	調査対象
全産業	29.4 →	27.3	36.1 →	36.6	34.5 ↓	36.1	↻	199社(回収率83.6%) 30人未満 72.9% 30人以上 27.1%
製造業	21.4 ↓		37.2 →		41.4 ↑		↻	72社(回収率85.7%) 30人未満 65.3% 30人以上 34.7%
建設業	35.1 ↑		33.3 ↓		31.6 →		↻	58社(回収率81.7%) 30人未満 91.4% 30人以上 8.6%
卸小売業	22.7 →		40.9 →		36.4 ↓		↻	45社(回収率83.3%) 30人未満 82.2% 30人以上 17.8%
サービス業		57.1 ↑		28.6 ↑		14.3 ↓	↻	8社(回収率88.9%) 30人未満 75.0% 30人以上 25.0%
輸送業	12.5 ↓		37.5 ↑		50.0 ↑		↻	8社(回収率80.0%) 30人未満 25.0% 30人以上 75.0%
外食業	37.5 ↑		37.5 →		25.0 ↓		↻	8社(回収率80.0%) 30人未満 37.5% 30人以上 62.5%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」全業種が減少

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(21%)が11割減少、「減少」割合(41%)が12割増加、「不変」割合(37%)が横ばいで、全体としては減少の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

業種	前回		
	増加	不変	減少
製造業	21.4	37.2	41.4
食料品	17.6	53.0	29.4
金属加工	21.4	28.6	50.0
一般機械	20.0	20.0	60.0
電気機械	0.0	40.0	60.0
自動車部品	0.0	33.3	66.7
精密機械	16.7	16.6	66.7

[業種別] 減少…食料品・金属加工・一般機械・電気機械・自動車部品・精密機械

[機械稼働] (前回比) 稼働率 下降
 上昇割合 (29%) → 16%
 下降割合 (13%) → 20%

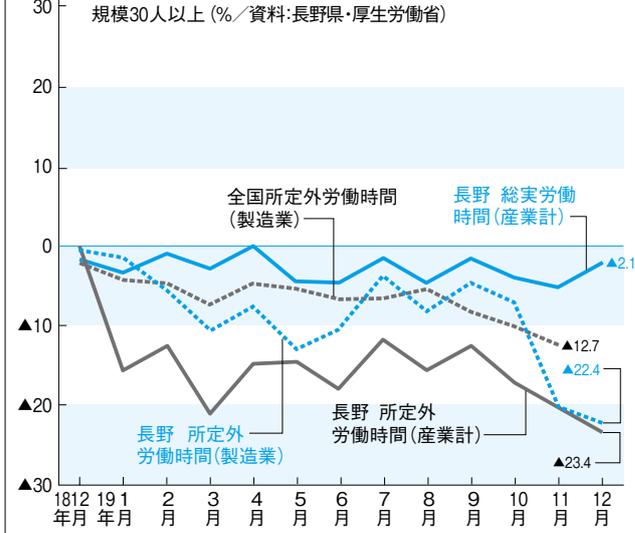
[受注状況] 受注量(前回比) 下降
 増加割合 (22%) → 14%
 減少割合 (18%) → 25%
 受注残高(1.7ヵ月) → 1.5ヵ月

[受注基調] (前回比) 下降
 上昇割合 (24%) → 11%
 下降割合 (16%) → 30%

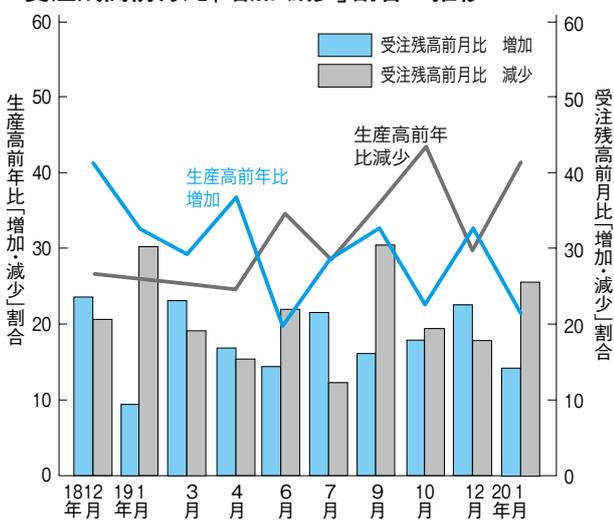
企業からのコメント

- ★季節要因による受注減少と、消費税増税による消費減少が目立つ。(漬物)
- ★農産物を主に中国から輸入しているため、新型コロナウイルスの影響が懸念される。(農産物加工)
- ☆★受注は増加傾向にあったが、新型コロナウイルスの影響で、多少ダウンしそうな情勢。(半導体装置)
- ★金属製品の受注は不安定。電子部品も中国情勢に影響され不透明。(金属製品・電子部品)
- ★新型コロナウイルスの影響で、中国からの部品供給が停止状態。(一般機械製造)
- ☆★自動車部品は前年比増加傾向。工作機械は減少気味だが、夏頃から増加予定。(自動車・電子部品)
- ☆★大手のOEM製品の受注とメディアで取り上げられたことで昨年の減少分を取り戻した。(乾麺製造)

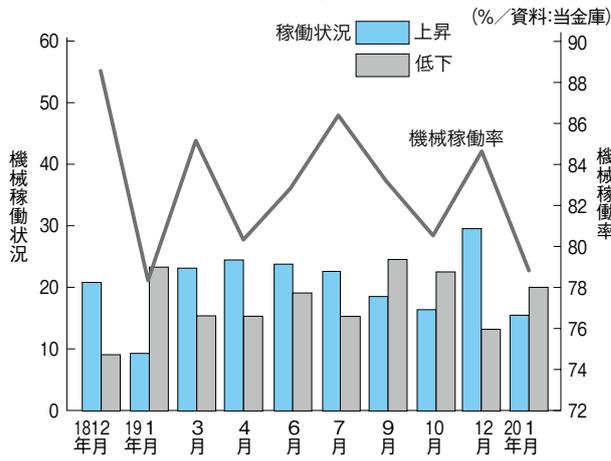
●長野県の労働時間の動き(前年同月比)



●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前月比「増加・減少」割合の推移(%)



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・低下」割合の推移(%)



建設業 総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」土木工事・各種設備が減少するも、全体は増加

概況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(35%)が5ポイント増加、「減少」割合(32%)が2ポイント減少、「不変」割合(33%)が2ポイント減少し、全体としては増加の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	30.6	35.5	33.9
	今回	増加 35.1	不変 33.3	減少 31.6
総合建設業		30.0	50.0	20.0
土木工事業		40.0	10.0	50.0
建築業		40.0	35.0	25.0
各種設備業		12.5	62.5	25.0

【業種別】 増加…総合建設

横ばい…建築

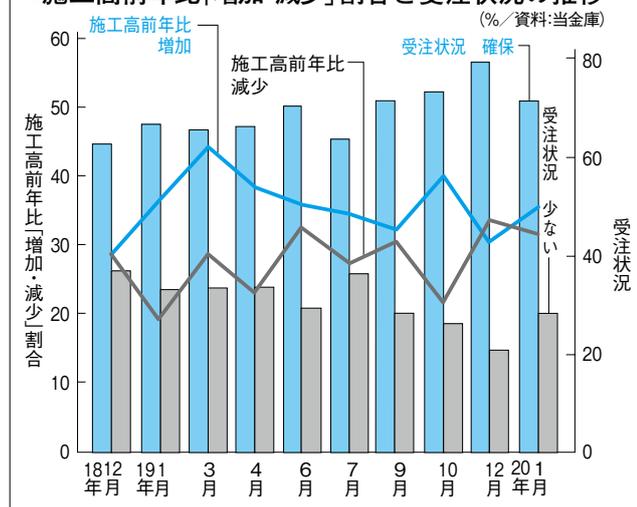
減少…土木工事・各種設備

【受注状況】 受注残高(前回比) 悪化

「多い・適正」割合 (79%) → 71%

「少ない」割合 (21%) → 29%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移



企業からのコメント

- ★各種原価が上昇し、利益の確保が難しい状況。
- ★「台風災害」と「消費税10%」に、「新型コロナウイルス」が相まって、経済的緊縮ムードが高まり、受注に影響を及ぼしている。(以上総合建設)
- ★当社の営業エリア内では、9月頃までの物件は少ない。しかし、補正予算発動が執り行われれば、10月以降の見通しは明るい。(内装工事)

4～1月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4～1月の発注合計は、1719.1億円(前年同期比+17.9%)となりました。前年比プラスは「国」の289.2億円(同+12.8%)、「県」の546.6億円(同+43.6%)、「市町村」の624.8億円(同+18.8%)で、マイナスは「そのほか」の254.3億円(同▲13.4%)です。

北信地区市町村の発注合計は200.0億円(同+4.5%)で、うち長野市は108.4億円(同+52.4%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2020年1月/2019年4月～2020年1月累計)

(単位=百万円/資料: 東日本建設業保証株)

		2020年1月	前年同月比	2019年4月～2020年1月	前年同期比
長野県	国	1,038	▲38.0%	28,922	12.8%
	県	3,386	20.7%	54,662	43.6%
	市町村	3,815	26.7%	62,483	18.8%
	そのほか	234	36.6%	25,426	▲13.4%
	合計	8,473	10.6%	171,912	17.9%
北信地区	市町村	1,489	4.1%	19,996	4.5%
	(内長野市)	1,026	▲5.0%	10,844	52.4%

4～1月の新設住宅着工戸数

長野県の4～1月の新設住宅着工戸数は10,946戸(前年同月比+2.9%)でした。持家が6,043戸(同▲0.1%)、貸家が3,401戸(同+9.9%)、分譲が1,493戸(同+4.9%)、給与が9戸(同▲87.1%)です。

北信地区の4～1月の新設住宅着工戸数は3,130戸(同+4.7%)でした。持家が1,690戸(同+4.9%)、貸家が887戸(同+10.7%)、分譲が552戸(同+5.7%)、給与が1戸(同▲98.2%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数

(2020年1月/2019年4月～2020年1月累計) (資料: 長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	1月	103戸	48戸	46戸	0戸	197戸
	(内長野市)	61戸	32戸	32戸	0戸	125戸
	前年同月比	7.3%	6.7%	48.4%	—	14.5%
	(内長野市)	1.7%	0.0%	68.4%	—	12.6%
	4～1月	1,690戸	887戸	552戸	1戸	3,130戸
前年同期比	4.9%	10.7%	5.7%	▲98.2%	4.7%	
長野県	1月	393戸	316戸	106戸	0戸	815戸
	前年同月比	▲9.2%	85.9%	▲3.6%	—	14.3%
	4～1月	6,043戸	3,401戸	1,493戸	9戸	10,946戸
前年同期比	▲0.1%	9.9%	4.9%	▲87.1%	2.9%	

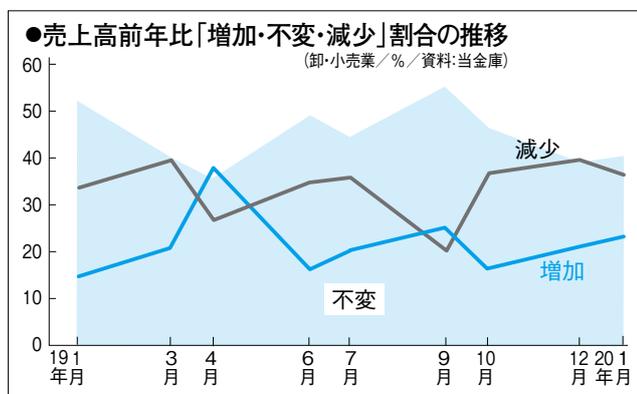
卸小売業 卸売業、小売業

「売上高」小売が減少するも、全体は横ばい

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(23%)が2割増加、「減少」割合(36%)が3割減少、「不変」割合(41%)が1割増加し、全体として売上は横ばいの状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	20.9	39.6	39.5
	今回	増加 22.7	不変 40.9	減少 36.4
卸売業		35.0	45.0	20.0
小売業		12.5	37.5	50.0



【業種別】 増加…卸売業 減少…小売業

1月の消費者物価指数(長野市) 2015年基準=100

◇総合指数(確報値)……103.2 (40カ月連続のプラス)

(前月比▲0.2%、前年同月比+1.0%)

上昇…「交通・通信」「食料品」「住居」

下落…「被服及び履物」「家具・家事用品」「教養娯楽」

◇生鮮食品を除く総合指数…103.1 (37カ月連続のプラス)

(前月比▲0.3%、前年同月比+1.2%)

企業からのコメント

- ★昨年の消費税率の改定以降、非食品・酒類の売上の落ち込みが続いている。(スーパーマーケット)
- ★台風19号災害後から動向が悪い。暖冬すぎて野菜が安値で、売上が厳しい。(青果卸)
- ☆キャッシュレス決済が増加。コンビニだと急がれるため試しにくいですが、車検や修理代などを時間的余裕のある当店で初めて試す人が多い。(自動車販売)
- ★食文化の多様化と人口減少が、少なからず和洋菓子の売上に影響している。(和洋菓子製造販売)
- ★暖冬で人出は良いが消費額は落ちている。(土産店)

サービス業 サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」サービス・外食は増加、輸送は減少

サービス業 売上高前年比「増加」割合は7割増加の57%、「減少」割合は23割減少の14%、「不変」割合は16割増加の29%と、売上は増加の状況です。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は21割減少の13%、「減少」割合は17割増加の50%、「不変」割合は4割増加の38%と、売上は減少の状況。タクシーは減少、運送は横ばいです。

外食業 売上高前年比「増加」割合は25割増加の38%、「減少」割合は25割減少の25%、「不変」割合は横ばいの38%と、売上は増加の状況です。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比34割の増加ですが、前年同月比は4割の減少で、宿泊利用は伸び悩んでいます。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」は34割増加の70%、「引合いやや増加」は8割減少の10%でした。

企業からのコメント

- ★タクシーはお客との接点が近いので、「新型コロナウイルス感染」への対応がとても不安。(タクシー)
- ★例年の閑散期に加え、取引先の台風被災からの復旧が長引き、業務量が落ち込んでいる。(貨物輸送)
- ★暖冬・雪不足のためキャンセル多く、新型コロナウイルスの影響もあって、集客が減少している。(ホテル)
- ☆クレジットカードによる支払いが現金を大きく上回っており、手数料負担を検討していく。(和風旅館)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	50.0	12.5	37.5
	今回	増加 57.1	不変 28.6	減少 14.3
輸送業	前回	33.3	33.4	33.3
	今回	12.5	37.5	50.0
うちタクシー業		0.0	0.0	100.0
うち運送業		16.7	50.0	33.3
外食業	前回	12.5	37.5	50.0
	今回	37.5	37.5	25.0

業界の市場の将来性

「拡大する」4% 「縮小する」41%

重点的な経営課題

「人材の確保・育成」「既存事業の販路・市場拡大」
「経費削減による収益力強化」

アンケート

2020年の経営見通し ③
2019年12月調査

業界の市場の将来性 「拡大する」が4%、「縮小する」が41%、「横ばい」が41%となり、昨年に比べ「拡大する」は1ポイント増え、「縮小する」は4ポイント減っています。

重点的な経営課題 上位2つ「人材の確保・育成」「既存事業の販路・市場拡大」は変わらず、昨年の3位と4位が入り替わり「経費削減による収益力強化」が3位になりました。

業界の市場の将来性

「横ばい」30人未満42%

「業界の市場の将来性をどのように認識しているか」を聞きました。

41%の企業は「市場規模は横ばいで進む」と答えています。同じく41%の企業が「縮小する」と答え、「拡大する」は4%に過ぎません。これは昨年に比べると、「拡大する」と「横ばい」がそれぞれ1ポイント増え、「縮小する」が4ポイント減っています。

従業員規模で見ると、30人未満は30人以上より「拡大する」が6ポイント高く6%、「横ばい」が3ポイント高く42%、30人以上は30人未満より「縮小する」が15ポイント高く52%になりました。

業種別

「拡大」製造9% 「縮小」卸小売55% 「横ばい」建設48%

◇ 4業種(前年比・全産業比)

製造業 前年比「拡大」が+5ポイントの9%、「横ばい」が▲3ポイントの45%、「縮小」が▲2ポイントの32%で、横ばいとなりました。「拡大」は他業種に比べ最も高く、他方「縮小」(32%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 前年比「拡大」が+3ポイントの3%、「横ばい」が+8ポイントの48%、他方「縮小」は▲16ポイントの36%で、4業種の中で最も改善しました。「横ばい」は他業種に比べ最も高くなっています。

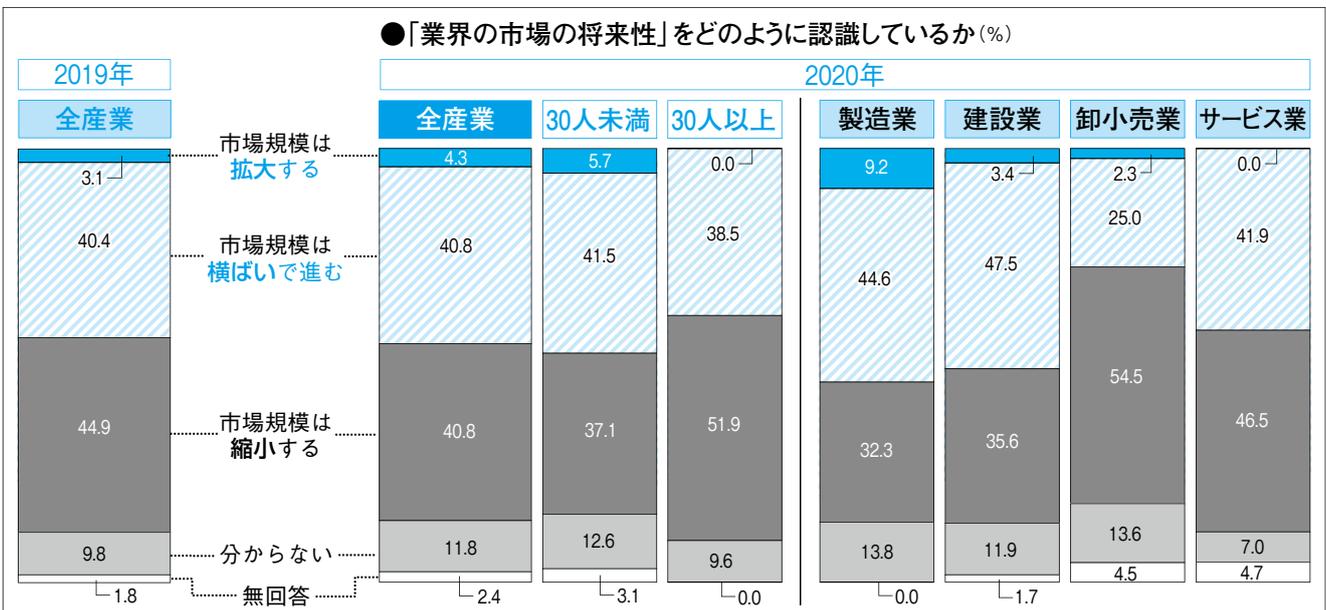
卸小売業 前年比「拡大」が▲2ポイントの2%、「横ばい」も▲8ポイントの25%、「縮小」が+9ポイントの55%となり、大きく悪化しました。「横ばい」(25%)は他業種に比べ最も低く、「縮小」(55%)は他業種に比べ最も高くなっています。

サービス業 前年比「拡大」は▲4ポイントの0%ですが、「横ばい」は+3ポイントの42%、「縮小」は▲4ポイントの47%で、やや改善しました。「拡大」(0%)と「わからない」(7%)は他業種に比べ最も低くなっています。

重点的な経営課題

「人材の確保・育成」46%
「既存事業の販路・市場拡大」36%
「経費削減による収益力強化」30%

「今後、重点的に取り組みたい経営課題は何か」を聞きました。



前年に比べ、上位の「人材の確保・育成」(46%)が▲8ポイント、「既存事業の販路・市場拡大」(36%)が+1ポイント、「経費削減による収益力強化」(30%)が+1ポイント、「既存製品・サービスの高付加価値化」(27%)が+3ポイント、「新しい収益源の確立」(26%)が▲6ポイントとなり、一部順位が変動しました。

従業員規模で見ると、30人以上では「人材の確保・育成」(60%)が18ポイント、「設備投資(老朽設備の更新)」(33%)が16ポイント、「新しい収益源の確立」(35%)が12ポイント、「設備投資(生産拡大や新分野進出)」(12%)が7ポイント、それぞれ30人未満より上回っています。30人未満には目立ったものはありません。

業種別

- 「人材の確保・育成」建設64%/サービス47%
- 「既存事業の販路・市場拡大」建設39%/製造39%
- 「経費削減による収益力強化」建設34%/サービス33%
- 「既存製品・サービスの高付加価値化」卸小売41%/製造28%
- 「新しい収益源の確立」製造28%/卸小売27%

◇4業種(前年比・全産業比)

製造業 前年比「既存事業の販路・市場拡大」(39%)が12ポイント、「経費削減による収益力強化」(28%)が8ポイント高くなり、「人材の確保・育成」(42%)は6ポイント、「新しい収益源の確立」(28%)は8ポイント低くなっています。また「設備投資(老朽設備の更新)」(29%)、「新しい収益源の確立」(28%)、「新しい事業分野への参入」(23%)、「設備投資(生産拡大や新分野進出)」(14%)が他業種に比べ最も高くなり、「資金調達・資金繰り改善」(5%)は他業種に比べ最も低くなっています。

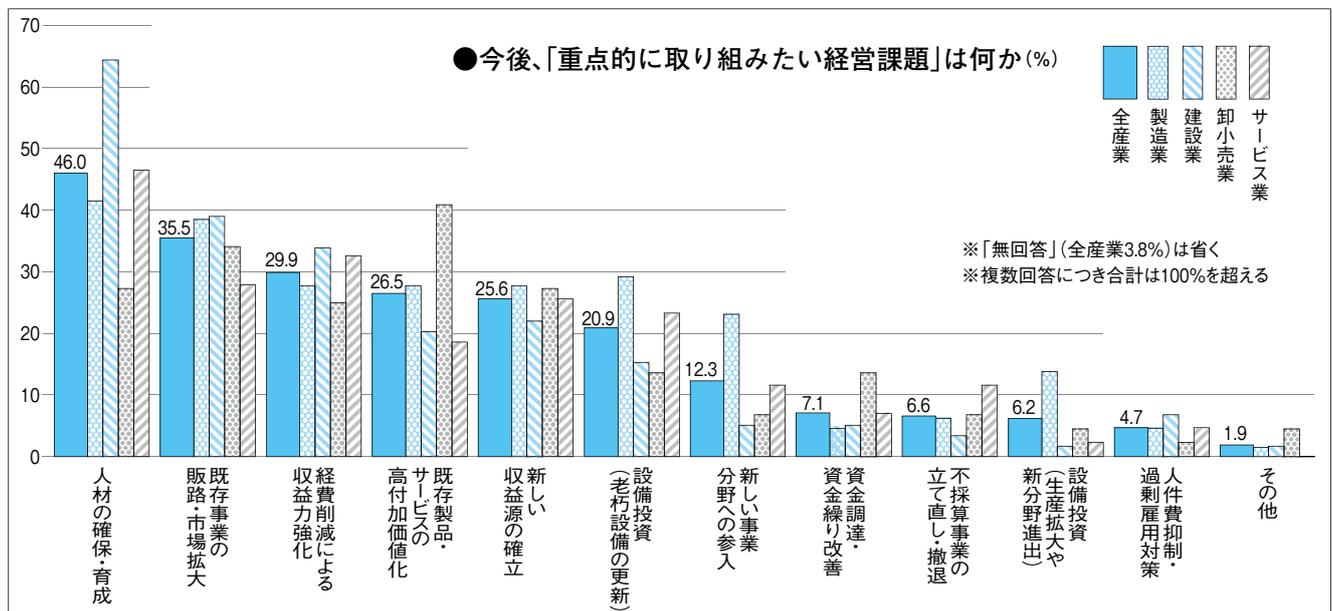
建設業 前年比「設備投資(老朽設備の更新)」(15

%)が7ポイント高くなり、「人材の確保・育成」(64%)は8ポイント、「経費削減による収益力強化」(34%)は6ポイント低くなっています。また「人材の確保・育成」(64%)、「既存事業の販路・市場拡大」(39%)、「経費削減による収益力強化」(34%)、「人件費抑制・過剰雇用対策」(7%)が他業種に比べ最も高くなり、「新しい収益源の確立」(22%)、「新しい事業分野への参入」(5%)、「資金調達・資金繰り改善」(5%)、「不採算事業の立て直し・撤退」(3%)、「設備投資(生産拡大や新分野進出)」(2%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 前年比「既存製品・サービスの高付加価値化」(41%)が19ポイント高くなり、「既存事業の販路・市場拡大」(34%)は12ポイント、「新しい収益源の確立」(27%)は5ポイント、「人材の確保・育成」(27%)も5ポイント、「経費削減による収益力強化」(25%)は8ポイント低くなっています。また「既存製品・サービスの高付加価値化」(41%)、「資金調達・資金繰り改善」(14%)が他業種に比べ最も高くなり、「人材の確保・育成」(27%)、「経費削減による収益力強化」(25%)、「設備投資(老朽設備の更新)」(14%)、「人件費抑制・過剰雇用対策」(2%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 前年比「経費削減による収益力強化」(33%)が11ポイント高くなり、「人材の確保・育成」(47%)は12ポイント、「新しい収益源の確立」(26%)は11ポイント、「設備投資(老朽設備の更新)」(23%)は9ポイント低くなっています。また「不採算事業の立て直し・撤退」(12%)が他業種に比べ最も高くなり、「既存事業の販路・市場拡大」(28%)、「既存製品・サービスの高付加価値化」(19%)は最も低くなっています。

◇次号は「事業継続計画BCP」を予定



良質かつリーズナブルで、 安心・安全な再生住宅の提供を



株式会社 Be-Style
代表取締役社長 依田洋貴さま

●設立の経緯からお伺いします…

父親が金融関係で不動産取引に詳しく、私が学生の頃から不動産関係の話を聞いており、興味を持っていました。

全国規模の不動産会社に就職、長野支店に配属となり、主に「中古住宅の再生事業」を担当していました。赴任当初は自分の知識が及ばず、恥ずかしいと思うばかりでしたが、現状を受け入れ、お客様の立場になり物事を考え行動した結果、自分自身の成長や自信に繋がりました。今現在でも、お客様からの感謝の言葉が一番の喜びです。

そんな最中、短期間での転勤を繰り返していたためでしょうか、いつしか「今よりも地域に密着した仕事がしたい」という感情が増し、お世話になった会社を退社。地元長野に戻り仲介ではなく、売主として「中古住宅の再生に特化した株Be-Styleを立ち上げました。

社名の“Be”は「～になる」「Style”は「かたち」という意味で、「一つでも多くの“家族”を幸せにする」ことが弊社の使命です。また、お客さまをはじめとし、取引業者、弊社社員のより良い生活の向上も目指しています。

●業務内の詳細をお聞かせください…

「中古住宅の再生」は、中古物件を仕入れ、付加価値を付けるためにリフォームを実施し、販売するという流れです。

売却される方は、「遠方で維持管理が出来ない」「税金や火災保険で費用がかさむ」「住宅を相続したが必要がない」など、空き家を処分したいという方が多く、そういった空き家を買取りさせていただいています。長野県全域で買取りを

させていただいていますので、それぞれの市町村の条例・規定を把握の上、さらに地域の特性を考慮して買取りを行っています。

お客様の大切な資産、思い入れのある住宅の売却先として、弊社を選んでいただけるように日々勉強の毎日です。

●他社と比較したときの特徴は…

弊社では、『良質かつ安心・安全な中古住宅を提供する』が経営理念です。しっかりと住宅の状態を把握するために、建物状況調査・住宅診断（ホームインスペクション）を行い、既存住宅瑕疵保険検査に適合するために、どのような工事をすればよいのか、社内や工事業者と企画を検討・打合せをした上でリフォーム内容を決定し、リフォームを行います。

既存住宅瑕疵保険累計加入件数は、昨年末で100件を超え（日本住宅審査機構、長野県内累計保険加入件数1位）。多くのお客様へ瑕疵保険付きの安心な中古住宅を提供することができています。第三者の建物状況調査・住宅診断（ホームインスペクション）と既存住宅瑕疵保険への加入、両方を行っていることは弊社の強みとなっています。

●社員教育で大切にされていることは…

システムやモノだけで住宅は売れません。最後はヒトだと考えています。お客様にとって、一生に一度の大きな買い物の瞬間に立ち会う訳ですから、ただ、住宅を紹介するだけでなく、住宅ローン・税金・建物・保険・相続と幅広い分野でお客様へのご提案が必要となります。定期的に講習を開き、私自身も含め社員教育を行っています。正直で丁寧な中古住宅を販売するよう指導しています。『お客様のために』が全てです。

●今後の方針などについて…

今後も、相続・人口減少などで空き家が増えていくと考えています。長野県は、全国的にみても空き家率が高い地域となります。またスクラップアンドビルドからストック重視へ、住宅

の考え方も変化しつつあります。

中古住宅市場は、まだまだ未成熟な部分や認知されていない部分が多くありますが、弊社が長野県の中古住宅再生販売のリーディングカンパニーとして認められるように、また、より安心・安全な中古住宅を今後も提供し続けることに



▲当社外観



▲ホール



▲応接室

よって、長野県の空き家対策・中古住宅市場の活性化の一端を担えていければと考えています。



▲物件の外観



▲物件のキッチンスペース



▲物件のリビング

●事業の概要

設立 2012(平成24)年

資本金 1,400万円

代表者 依田洋貴

従業員 9名(男3・女6)

業務 中古住宅の買取、販売、仲介

URL <https://www.bs-estate.co.jp>

北信濃 江戸時代の風景

(67) 洪水後の山村山

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



本年度は、弘化4年(1847)に起こった善光寺地震を記録した『地震後世俗語之種』(国立国会図書館本)の挿絵を用いています。

善光寺地震が起こったのは、3月24日(太陽暦では5月8日)の午後10時ころでした。この大地震により虚空蔵山(岩倉山)(長野市信更町)が崩壊し、犀川をせき止めました。この天然ダムが4月13日に決壊し、大洪水を引き起こしたことを、前号に書きました。今回の絵は、少し前に大洪水があったことが嘘のような、平穏を取り戻した犀川が描かれています。

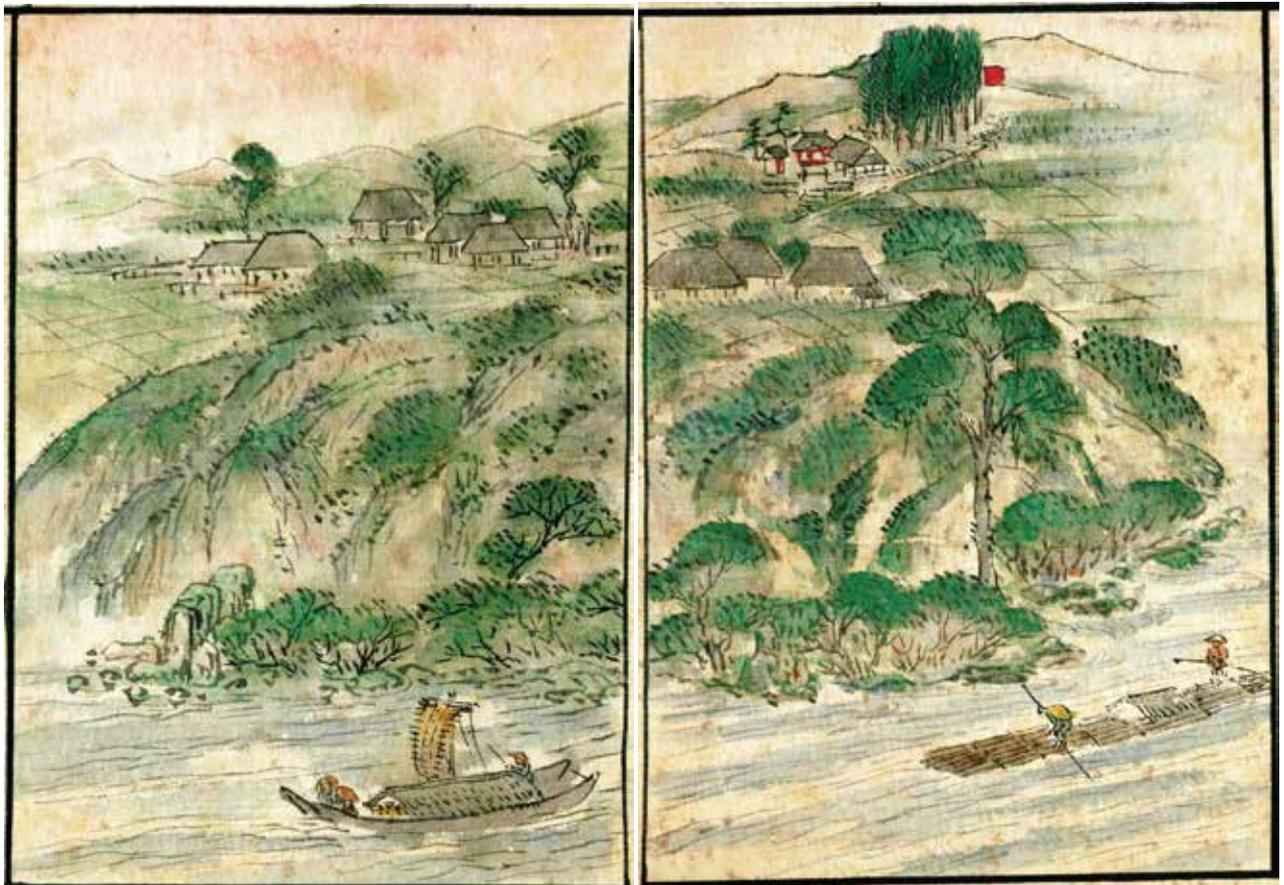
絵に添えられた文章

この絵には、次のような文章が添えられています。(現代語訳)この図をここに出したのは、次のような事情です。去る夏の頃、村山村(長野市篠ノ井山布施村山)の荒神堂(三宝寺)に参詣したところ、

お堂の裏の少し高いところに2丈(6メートル)余の杉の木がありました。その先端にゴミがたくさん引っかかっていたので、不思議に思って質問したところ、洪水の時、大水のためにこうなったということでした。疑いようのない事実には驚いて、絵の中に□の印を付けておきました。この高さまで水が来たことを後世に伝えたいために、ここに記しました。

絵を読む

手前に犀川があり、舟や筏が下って行きます。川の流れは速そうです。水面からかなり高いところに水田や人家が描かれています。ここが村山村(長野市篠ノ井山布施村山)で、右奥には寺院が描かれています。これが荒神堂(三宝寺)で、その続きには杉の木立があります。その右に■の印があります。これが説明文にあった、弘化4年(1847)4月



「犀川の平水と村山村の高低を見競図」(国立国会図書館蔵『地震後世俗語之種』より)

13日の大洪水で水の来た高さです。

現代の地形図で調べると、荒神堂の背後は標高約400メートルです。犀川の水面は、現在は小田切ダムのダム湖になっているので正確ではないのですが、約370メートルです。洪水の高さは約30メートルだったと思われます。犀川の平野部への出口にある小市は、この時高さ約20メー



長野市篠ノ井山布施村山の三宝寺

トルの洪水だったといえますから、その上流の村山では高さ30メートルもの大激流だったと想像されます。

村山の荒神さん

荒神堂三宝寺は浄土宗の寺院で、「村山の荒神さん」と呼ばれて、安産・子育てや厄除けのご利益があるとして信仰を集めてきました。本尊は三宝大荒神と子安荒神です。この内子安荒神は、「木造伝子安荒神坐像」として、国の重要文化財の指定を受けています。赤子を抱いた、珍しい女神像です。

この子安荒神像は、坂城の戦国武将村上義清によって作られたと伝えられています。義清は甲斐の武田信玄に追われ、上杉謙信を頼って越後へ逃れる途中、川中島の蓮香寺(長野市川中島町原)にこの像を託して行きました。川中島の合戦により蓮香寺は村山に疎開しましたが、戦後もこの像だけが村山の地に残ったというのです。

山村山と里村山

松代藩には村山村が2つありました。千曲川の村山橋が架かる村山と、この篠ノ井山布施村山です。そこで区別するために、前者を里村山、後者を山村山と通称してきました。今回の題を「洪水後の山村山」としたのも、里村山との混同を避けた

めです。

里村山の千曲川を挟んだ対岸の須坂市側にも、村山地区があります。これは本来は1村だった村山が、千曲川の流路が変わったために2村に分割されてしまったのです。須坂市側の村山村は松代藩領ではなく、幕府領(天領)でした。

犀川の通船

この絵には犀川を下る舟と筏が描かれています。犀川の通船が許可されたのは天保3年(1832)のことで、松本から新町(信州新町)まで下る船によって物資の輸送が行われました。新町の下流には「弥太郎の滝」と呼ばれる激流があって、それより下流には船を下すことができなかったのです。弘化4年の善光寺地震によって「弥太郎の滝」は消滅し、三水(長野市信更町三水)まで船が通るようになりました。

しかしさらにその下流でも、この絵のように小さき舟や筏による人や物資の輸送が行われていました。大岡(長野市大岡)の大金持ちが、舟で権堂の花街に通っていたといった話も伝えられています。

4月号は「伊能忠敬信州へ」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫について](#)

17th NAGANO SHINKIN BANK Presents



SHINKIN BUSINESS FAIR 2020



ひらめきで
信州の未来をつなぐ。
人をつたえる。

第17回長野しんぎんビジネスフェア
2020年5月13日[水]10:00-17:30
会場:ビッグハット / 入場無料

主催  長野信用金庫

共催:長野県信用金庫協会、長野県中小企業家同友会

共催:長野しんぎんビジネスクラブ、長野県信用金庫経営者協会

●みなさまの税務相談のご案内 [4月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
4月 2日 木	長池支店 (大豆島支店)		4月 14日 火	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)
3日 金	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)	16日 木	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)
7日 火	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	17日 金	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
8日 水	須坂支店 (墨坂支店・太子町支店)	豊野支店	21日 火	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
9日 木	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)	22日 水	本 部	
13日 月	権堂支店 (善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)	23日 木	本 部	

●4月の「しんぎん事業相談会」は4月1日(水)です

 長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)



長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>